経営発達支援計画
令和元年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

地域経済動向調査レポート

～京丹後市版～

（平成31年1月～ 3月）

京丹後市商工会

地域経済動向調査レポートー京丹後市版ー

～人手不足が顕著化し景気低迷感を誘発した市内の小規模企業～

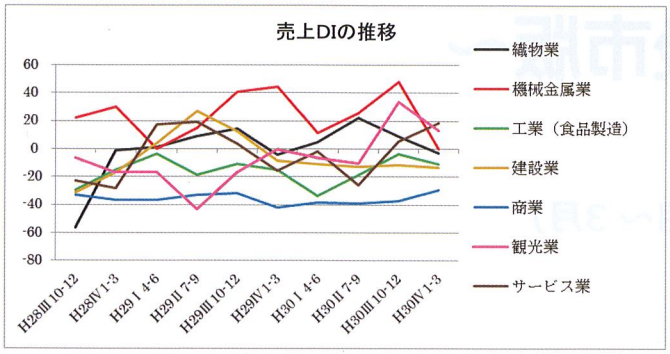
令和元年5月31日

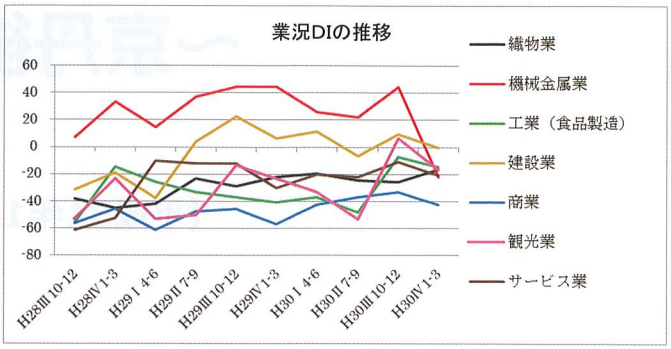
＜調 査 概 要＞

【調査対象】地域内の小規模事業者等101件　【調査期間】2019年1月～ 3月
【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査票への選択記入式

＜産 業 全 体＞ …人手不足が顕著化し景気低迷感を誘発した市内の小規模企業…

1月～3月の小規模事業者経済動向調査は、産業全体の資金繰りDI(景気動向指数・前四半期対比)は1ポイント改善したが、他の項目全てで悪化した。悪化幅は、売上DIと採算DIが僅かで2～4ポイントだったのに対して、業況DIは12ポイントと大きく悪化した。不安定な海外情勢に加え、例年にない暖冬と、全業種に共通した人手不足が影響し、業況感を悪化させた。

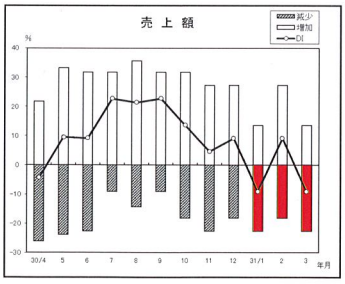


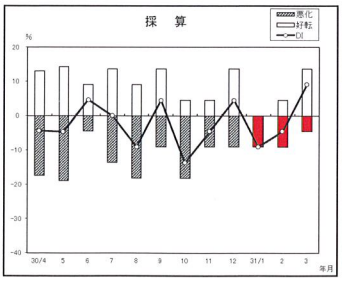


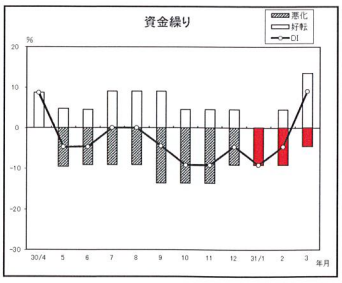
※上記グラフは、過去の四半期毎の該当DIの平均値を算出しグラフ化したもの

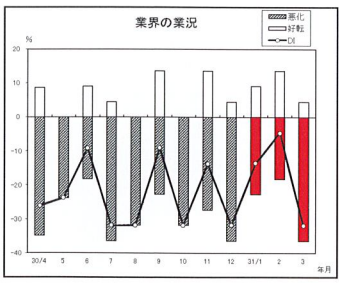
織　物　業　設備投資などで一部利益率向上するも先行き不透明な織物業

織物業は3月に入り、売上DIと業況DIは20ポイント以上大きく悪化に転じたが、1月～2月までは改善傾向であった。前四半期との比較でも全項目で低調ながら僅かに改善を示している。中でも採算DIと資金繰りDIは改善傾向で、施策活用した設備投資などによる利益率向上の経営努力が伺える。経営支援員からは出機不足による先行き不透明感が強くなり、他産地での廃業ラッシュが続いているとの報告があった。



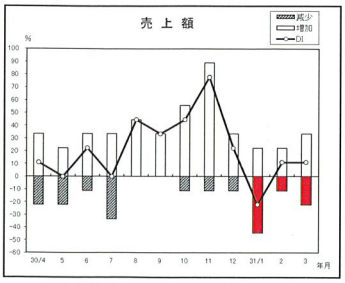


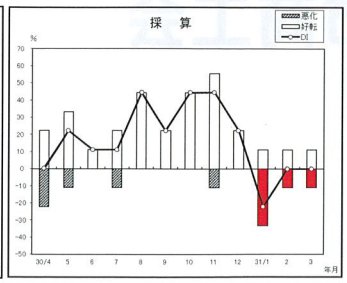


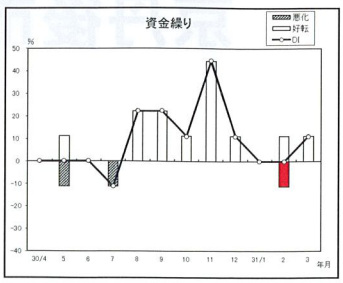


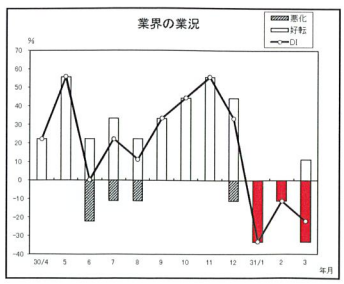
機械金属業　依然、受注量はキープするも景況感に陰りが見える機械金属業

機械金属業は1月～3月において、全ての項目で横ばいであった。しかし、前四半期との比較では、好調をキープし続けてきたが一転、全ての項目において20～30ポイントと大きく悪化に転じた。依然、安定した受注量はキープしているものの、人手不足と米中関係の悪化によるしわ寄せが懸念される。経営支援員からは、業界内での格差が広がり、景況感に陰りが見え始めているとの報告があった。



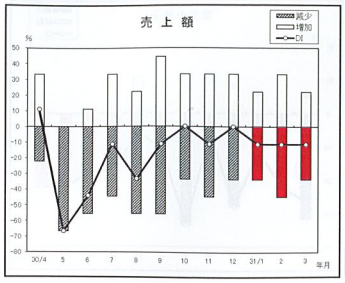


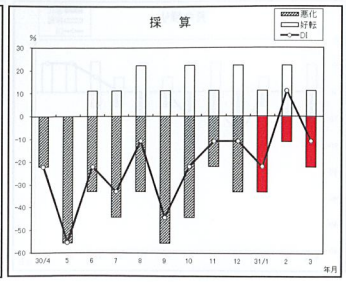


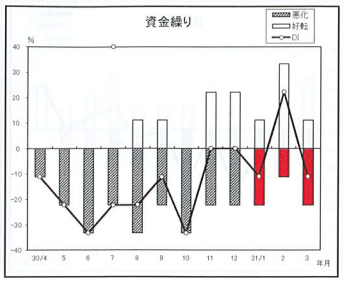


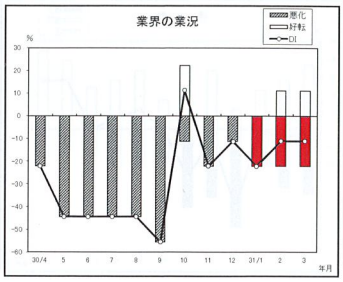
工業（食品製造） 暖冬による原材料高騰で採算確保に苦慮する【工業】（食品製造）

工業（食品製造）は3月に入り、売上DIと業況DIは横ばい。採算DIと資金繰りDIは共に10ポイント悪化した。しかし、前四半期との比較では売上DIと業況DIは10ポイント悪化し、採算DIと資金繰りDIは7～10ポイント改善した。経営支援員からは、暖冬による原材料の高騰や人材不足によって利益確保ができないとの報告が多数見られた。



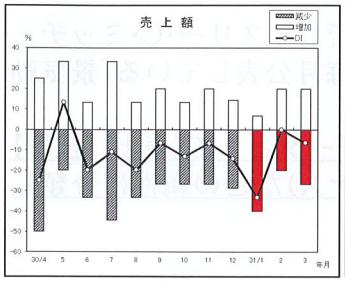


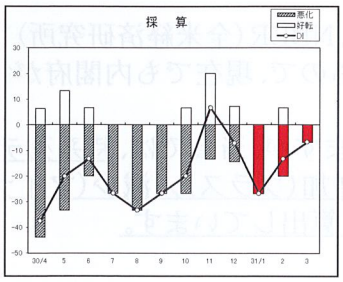


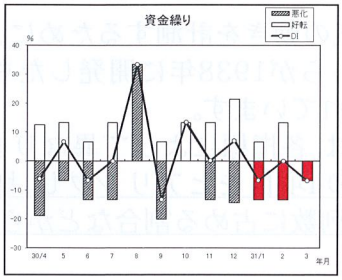


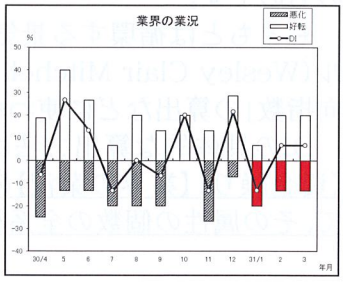
建設業 災害復旧工事増に繁忙を極めるも人手不足が起因して採算悪化の建設業

建設業は1月に入り、好調で推移していた売上DI、採算DI、業況DIが30～60ポイントと大きく悪化した。一方で、資金繰りDIは10ポイント改善している。前四半期との比較では全ての項目において悪化した。経営支援員からは、繁忙期における金融機関の貸出姿勢が良好な上、災害復旧工事需要に多忙を極めるといった業況は好調なものの人手不足による影響が著しく、採算を圧迫しているとの報告があった。



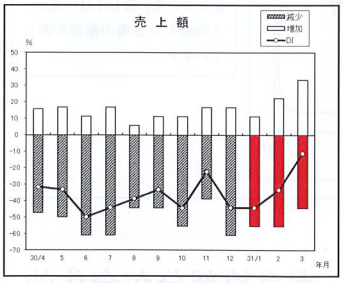


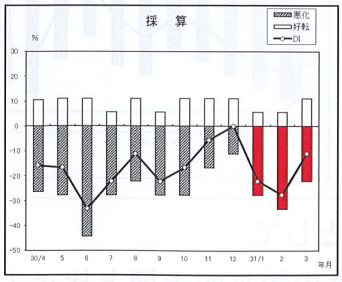


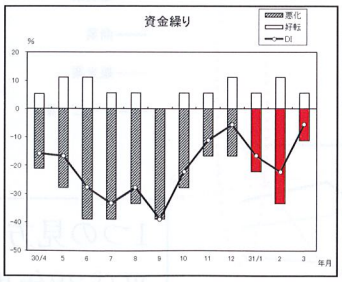


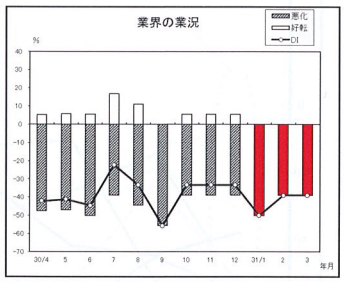
商業 暖冬による季節的需要に明暗が分かれ、取り巻く環境は一層厳しい商業

商業は3月に入り、業況DIは横ばい。他の項目は低水準ながら小幅に改善を示した。前四半期との比較では、売上DIは6ポイント改善したが、他の項目は全て悪化した。特に採算DIは13ポイント悪化した。経営支援員からは、積雪の影響が少なく客足が伸びたとの報告がある一方で、消費税の増税懸念に加え、暖冬、大型店、ネット通販との競合から取り巻く環境は厳しい状況が続くとの声があった。



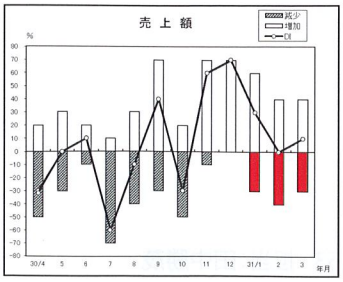


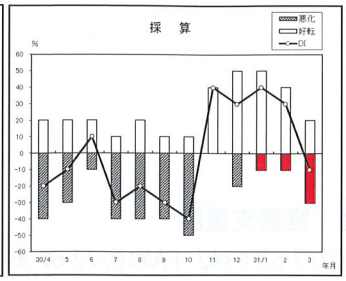


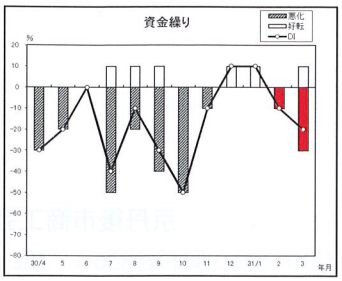


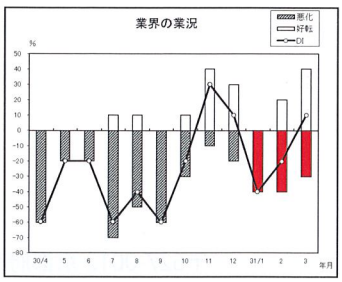
観光業 暖冬の恩恵受けるも原材料が高騰し利益確保に苦戦する観光業

観光業は3月に入り、採算DIと資金繰りDIは10～20ポイント悪化。売上DIと業況DIは10～30ポイント改善した。しかし、前四半期との比較では、採算DIと資金繰りDIは改善、売上DIと業況DIは悪化と反転する結果となった。経営支援員からは、暖冬の恩恵もあり、日帰り客の入込客数の増加と客単価アップで好調であったとの報告がある一方で、原材料が高騰して利益確保が難しい状況が続いているとの報告もあった。宿泊客については依然減少傾向だが、外国人宿泊者数は増加傾向で、受入対策による格差が広がりつつある。



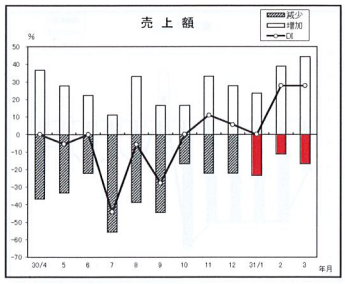


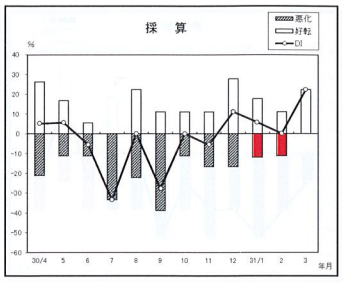


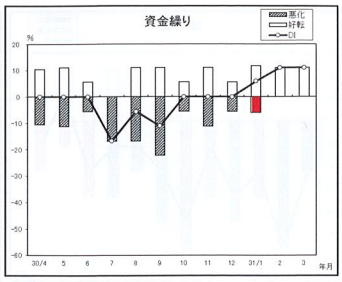


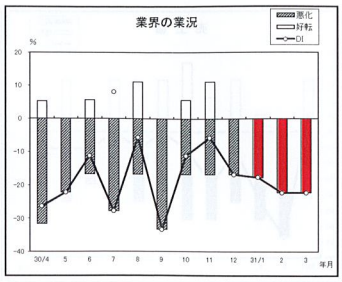
サービス業（飲食店） 好調が継続するも人材確保面で不安要素が多いサービス業

サービス業は3月に入り、採算DIは20ポイント大きく改善。他の項目は改善からの横ばいとなった。前四半期との比較では、売上DI、採算DI、資金繰りDIは8～13ポイント改善し、2期連続の改善となった。業況DIは10ポイント悪化した。経営支援員からは積雪がなく好天に恵まれたことで、売上と採算が向上したとの報告が多く見られた。しかし他業種と競合して人材の獲得競争に拍車がかかっているとの報告もあった。









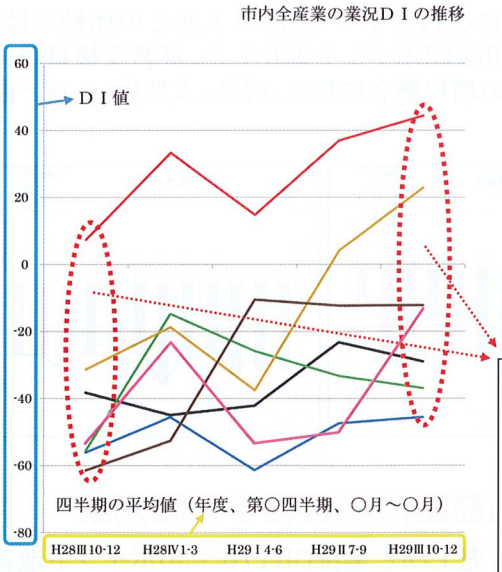
DI値とは

DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、企業の業況感や売上額などの各種判断を指数化したものです。一般的に「変化の方向性を捉える」といった特徴を持つといわれ、各指標の数値が上昇しているのか低下しているのかを調べ、景気がどれくらい波及しているかを把握するためのものです。

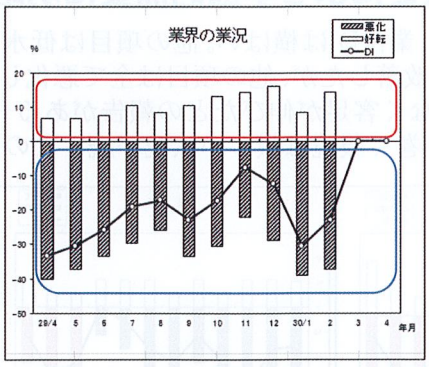
もともとは循環する景気の動きを計測するために、NBER（全米経済研究所）でウェスリー・C・ミッチェル（Wesley Clair Mitchell）らが1938年に開発したもので、現在でも内閣府が毎月公表している「景気動向指数」の算出などに使われています。

DIの具体的な算出方法は、各指標によって異なりますが、当会では、時系列データとして【売上】【採算】【資金繰り】【業界の業況】の4項目をヒアリングし、増加（プラス）／減少（マイナス）などの属性に分類して、その属性の個数の全系列数に占める割合などから算出しています。

グラフの見方



※ご注意して頂けなければならない点は、これらのDI値が「絶対」若しくは「正しい」というモノではありません。あくまでも感覚的な指標であり、参考数値（材料）の1つに過ぎないことをご承知下さい。



□は、項目について、「好転している」若しくは「良い」と判断した企業の推移を表しています。

□は、項目について、「悪化している」若しくは「悪い」と判断した企業の推移を表しています。

1つの見方として

平成28年度の第Ⅲ四半期と比べて、赤点線部分が全体的に上に移動していて、上下範囲が大きくなっています。

このようなことからも、市内産業全体の業況は、全体的に上向き傾向の一方で格差が広がっているということが言えます。

京丹後市商工会　経営支援課

〒627-0012 京都府京丹後市峰山町杉谷836-1　TEL：0772-62-0342　FAX：0772-62-3553　担当：田中勝茂